

主権者教育の研修会で生徒会の役割について考える  
高校生たち 19日、福井市の県生涯学習館



## 生徒会再考、政治へ関心

### 主権者教育 県立高60人福井で研修

県内の県立高校生を対象にした主権者教育の研修会が19日、福井市の県生涯学習館で開かれた。生徒の意見を集約して学校生活に反映させる生徒会の役割を通じ、政治について関心を深めた。

18歳選挙権などを踏まえて県教委が昨年度に続いて開いた。首都大学東京の林大介特任准教授が講師を務め、27校の生徒会役員を中心とする生徒約60人が参加した。

生徒たちは生徒会という存在を絵で表現することに挑戦。目安箱の絵を描いた生徒は「広く意見を聞き入れて反映していくための存在。裏からしっかり学校を支えてい

る」と発表した。生徒会に関するキーワードには▽選挙▽会議▽代表▽リーダーなどを挙げ、役割や在り方についてイメージを膨らませた。

奥越明成高の生徒会書記長の中嶋杏奈さん(2年)は「自分たちの考えを実行してよりよい学校にしていくという流れが、実は政治なのかなと思った。実際の政治がどういった仕組みか気になってきた」と話していた。

林特任准教授は、選挙権がない子どもであっても主権者には当てはまるとし、「高校生として社会にどう関わることができるのかを考えるのが大事」と呼び掛けた。(細川善弘)